

平成23年3月期 第3四半期決算について

ANAグループは、本日1月31日(月)、平成23年3月期 第3四半期決算を取りまとめました。詳細は別添の「平成23年3月期 第3四半期決算短信」をご参照ください。

1. 平成23年3月期 第3四半期の連結業績

(1) 連結経営成績(連結子会社64社、持分法適用非連結子会社5社、持分法適用関連会社20社)

概況

- ・ 堅調な需要推移により、世界的な景気後退の影響を受けた前年同期と比較して、航空運送事業で大幅な増収となりました。
- ・ 一方で、昨今のわが国経済は足踏み状態となっており、原油価格の高騰や海外景気の下振れ懸念、為替レートの変動等もあり、先行きは不透明な状態となっております。
- ・ 首都圏空港の発着枠増加による事業規模拡大に伴って、生産連動費用や航空機材費は増加しましたが、「ANAグループ2010-11年度経営戦略」に基づいたコスト構造改革を着実に実行し、グループ全体で営業費用の抑制に努めました。

これらの結果、当期の連結経営成績は、営業収入が10,391億円、営業利益が777億円、経常利益は583億円、四半期純利益は375億円と大幅な増収増益となりました。

単位: 億円 (増減率を除き、単位未満は切り捨て)

【連結経営成績】	平成23年3月期 第3四半期累計期間	平成22年3月期 第3四半期累計期間	増減	増減率(%) ¹
営業収入	10,391	9,237	1,153	12.5
営業費用	9,614	9,615	▲ 1	▲ 0.0
営業損益	777	▲ 378	1,155	——
営業外損益	▲ 193	▲ 198	4	——
経常損益	583	▲ 576	1,159	——
特別損益	26	▲ 3	29	——
四半期純利益または純損失	375	▲ 351	727	——

1 前年同期との比較による増減率を示しています。

単位: 億円 (単位未満は切り捨て)

【セグメント情報】	平成23年3月期 第3四半期累計期間		(参考) 平成22年3月期 第3四半期累計期間		増減	
	売上高	営業損益 ²	売上高	営業損益	売上高	営業損益
航空運送事業	9,307	702	8,163	▲ 399	1,143	1,101
旅行事業	1,248	32	1,269	▲ 2	▲ 20	34
その他	1,044	40	1,033	21	11	18

2 各事業における営業損益はセグメント利益に該当します。

国内線旅客事業

- ・ ビジネス需要、プレジャー需要ともに堅調に推移し、旅客数は前年同期実績を上回りました。
- ・ 「乗継特割」の新規路線設定、羽田空港第2ターミナル拡張に伴うラウンジの新設等、需要喚起とサービスの強化に努めました。
- ・ 年末等の需要が旺盛な時期には、臨時便の設定や機材の大型化を行う等、引き続き需給適合を推進しました。

結果として、国内線旅客収入は前期比4.7%増の224億円の増収となりました。

(増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て)

【国内線旅客事業】	平成23年3月期 第3四半期累計期間	平成22年3月期 第3四半期累計期間	増減	増減率(%)
売上高(億円)	5,030	4,805	224	4.7
旅客数(千人)	31,553	30,190	1,362	4.5
座席キロ(百万座席キロ)	42,789	43,589	▲799	▲1.8
旅客キロ(百万人キロ)	27,949	26,759	1,190	4.4
利用率(%)	65.3	61.4	3.9	——

国際線旅客事業

- ・ 11月以降に尖閣諸島問題の影響により、中国線の観光需要が落ち込んだものの、羽田空港国際化に合わせた新規就航および増便の効果の他、ビジネス需要の顕著な回復とプレジャー需要の堅調な推移により、旅客数は前年同期実績を上回りました。
- ・ 羽田空港国際化に伴い、羽田空港からの国際線ネットワークを拡充して利便性の向上を図るとともに、国際線定期便就航記念キャンペーン等を実施し、首都圏発に加えて地方発の需要喚起策が奏功しました。
- ・ 中国・アジア・ヨーロッパで展開するANAホームページにおいて、各国通貨にて航空券を予約購入できる機能を導入、10月より成田＝ロンドン線に新プロダクト搭載機材(ボーイング777-300ER)を導入し、競争力強化と訪日需要の獲得に努めました。

結果として、国際線旅客収入は前年同期比37.3%増の584億円の増収となりました。

(増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て)

【国際線旅客事業】	平成23年3月期 第3四半期累計期間	平成22年3月期 第3四半期累計期間	増減	増減率(%)
売上高(億円)	2,150	1,565	584	37.3
旅客数(千人)	3,906	3,411	495	14.5
座席キロ(百万座席キロ)	21,688	20,131	1,556	7.7
旅客キロ(百万人キロ)	16,883	15,016	1,867	12.4
利用率(%)	77.8	74.6	3.3	——

貨物事業

- ・ 国内線は、国際線への接続貨物が伸びており、輸送重量の底上げに寄与しましたが、機材小型化の影響もあり、輸送重量は前年同期実績を下回りました。
- ・ 国際線は、液晶・半導体関連部材の荷動きが活発なアジア域内路線、自動車部品を中心とした日本発北米路線の需要が好調に推移し、輸送重量は前年同期実績を上回りました。

結果として、国内線貨物収入は前年並み、国際線貨物収入は前年同期比66.7%増の260億円の増収となりました。

(増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て)

【貨物事業】		平成23年3月期 第3四半期累計期間	平成22年3月期 第3四半期累計期間	増減	増減率(%)
国内線	売上高(億円)	245	244	1	0.8
	輸送重量(千トン)	346	352	▲ 6	▲ 1.9
	有償貨物トンキロ(百万トンキロ)	343	348	▲ 4	▲ 1.4
国際線	売上高(億円)	650	390	260	66.7
	輸送重量(千トン)	425	303	121	40.1
	有償貨物トンキロ(百万トンキロ)	1,560	1,267	292	23.1

(2) 連結財政状態

- ・ 資産の部では、譲渡性預金など手元資金が増加するとともに、航空機を受領したこと等により、流動資産と固定資産がそれぞれ増加しました。
- ・ 有利子負債は、社債の発行や新規の借入により、733億円増加しました。
- ・ 自己資本は326億円増加の5,062億円、自己資本比率は25.0%となりました。

(自己資本比率、D/Eレシオを除き単位未満は切り捨て)

【連結財政状態】	平成23年3月期 第3四半期累計期間	平成22年3月期	増減
総資産(億円)	20,253	18,590	1,662
自己資本(億円) (注1)	5,062	4,735	326
自己資本比率(%)	25.0	25.5	▲ 0.5
有利子負債残高(億円) (注2)	10,150	9,416	733
D/Eレシオ(倍) (注3)	2.0	2.0	0.0

注1: 自己資本は純資産合計から少数株主持分を控除しています。

注2: 有利子負債残高にはオフバランスリース負債は含みません。

注3: D/Eレシオ = 有利子負債残高 ÷ 自己資本

(3) 連結キャッシュ・フローなどの状況

- ・ 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益に、減価償却費や税金などを調整の結果、1,824億円の収入となりました。
- ・ 投資活動によるキャッシュ・フローは、航空機を中心に投資を行った結果、1,737億円の支出となりました。
- ・ 財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済を進める一方、社債の発行、新規の借入により資金調達を行った結果、665億円の収入となりました。

単位：億円(単位未満は切り捨て)

【連結キャッシュ・フローなど】	平成23年3月期 第3四半期累計期間	平成22年3月期 第3四半期累計期間
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,824	830
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,737	▲3,040
財務活動によるキャッシュ・フロー	665	1,823
現金および現金同等物期末残高	2,231	1,046
減価償却費	876	842

2. 通期の見通し

- ・ わが国経済は、緩やかに回復しているものの、改善の動きは足踏み状態となっており、原油価格の高騰や海外景気の下振れ懸念、為替レートの変動等もあり、先行きは不透明な状況となっております。
- ・ 第4四半期は、航空他社や新幹線等の他交通機関との競合は厳しさを増すものの、引き続き需給適合を行いながら競争力強化、需要喚起等に努めてまいります。また、年度当初から取り組んでいる「ANAグループ2010 - 11年度経営戦略」によるコスト構造改革を着実に推進し、費用抑制に取り組んでまいります。

当社グループを取り巻く環境は依然不透明なため、昨年10月29日に発表いたしました業績予想を据え置いております。

なお、配当につきましては、当初の予定通り1株につき年間1円を予定しております。

単位：億円(単位未満は切り捨て)

【平成23年3月期見通し】	予想 (第2四半期決算修正発表値)	前年実績 (平成22年3月期)	増減
営 業 収 入	13,770	12,283	1,486
営 業 利 益	700	▲542	1,242
経 常 利 益	370	▲863	1,233
当 期 純 利 益	60	▲573	633

以 上